

20万分の1「長野」地域の火山 (本文23-25頁参照)

<地質調査所 地質部 中野 俊>



1. 草津白根火山、湯釜火口。後方に北アルプス後立山連峰、高妻山、妙高山など。湯釜の左側火口縁には多くの観光客が押し寄せている。左奥が湯釜。1980年以降の噴火は湯釜と湯釜の中でおこっている小規模な水蒸気爆発である。湯釜手前側の斜面には1942年の火口列がほぼ真横に並んでいる。



2. 浅間火山、前掛山、黒斑山外輪山より望む。有史以降の噴火はすべて山頂火口でおこっている。この外輪山から内側は立入禁止となっているが、「百名山」ブームの影響で山頂をめざす登山者が・・・。

3. 北八ヶ岳の火山群(左より蓼科山、横岳、縞枯山、茶臼岳、麦草峠を挟んで丸山)、横岳と縞枯山の間には通年営業のロープウェイが架かる。有史以降の噴火は記録されていないが、ロープウェイ山頂駅の目前に広がる坪庭は、横岳から流出した八ヶ岳火山最新の溶岩原である。八ヶ岳は活火山リストには加えられていない。

